

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価（3月28日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>〈教育課程〉 (1) 生徒の多様な学習ニーズに対応するための教育課程を編成する。</p> <p>〈学習指導〉 (1) 授業の質の向上(授業改善)と量(授業時間)の確保に努め、確かな学力の定着と向上を目指す。 (2) 生徒の学習意欲を高め、主体性、協働性、探究力を育成する。</p>	<p>〈教育課程〉 (1) 生徒の実態や多様な学習ニーズに対応した柔軟な教育課程の研究を推進する。</p> <p>〈学習指導〉 (1) 生徒、教員のICTリテラシーの向上を図り、ICTを活用した学習活動を推進し、基礎基本的な学力の定着と学習意欲の向上を図る。 (2) 生徒の学習意欲を高める授業改善の取り組みの仕組みを構築する。</p>	<p>〈教育課程〉 (1) ①生徒の多様な学習ニーズに対応するためにより良い教育課程を追究する。 ②3修制での卒業を目指す生徒に対応した教育課程を追究する。 ③各教科「定期テストの共通化」の実施に向けた検討を進め、教育の質の向上と共通性の確保に努める。 ④授業時間の確保に努める。</p> <p>〈学習指導〉 (1) Google for Educationを用いて生徒への連絡や学習活動に活用する。学習意欲を向上させるためにもICTを用いた授業や演習を通じて、授業改善・学習の定着を推進する。</p> <p>(2) 各教科を通じて育成できるよう教科横断的な組織体制を充実させる。</p>	<p>〈教育課程〉 (1) ①教育課程の見直し・改善が図れたか。(担当者による評価) ②3修制を希望する生徒の卒業率をあげることができたか。(卒業者数の推移) ③共通テストが実施できたか。(共通テストの実施率) ④授業時間の確保ができたか。(昨年度より授業時間を確保できたか。)</p> <p>〈学習指導〉 (1) Google for Educationを学習活動に活用できたか。ICTを活用するなどの工夫により授業改善ができたか。(担当者による評価、生徒による授業評価アンケート)</p> <p>(2) 生徒の基礎学力、思考力等を伸ばす授業ができたか。主体的な取組を育成できたか。(担当者による評価、生徒による授業評価アンケート)</p>	<p>〈教育課程〉 (1) ①新教育課程を見据え、教育課程の検討を行った。 ②1月31日現在、3年で卒業を予定している生徒は、29名である。 ③定期テストの共通化は、ほぼ実施することができた。 ④昨年度より授業時間の確保に努めることができた。</p> <p>〈学習指導〉 (1) Google for Educationを用いて遠隔での学習指導を行い、生徒とコミュニケーションを取ることができた。 (2) 教科横断的な取組を組織に実施できなかった。</p>	<p>〈教育課程〉 (1) ①新教育課程について教科会・研修会等を行い指導法について検討する。 ②3年で卒業を希望する生徒の自覚を促し、入学から卒業までを見直し計画的な指導を行っていく。 ③定期テストの共通化の意識を高め引き続き実施を目指す。 ④今後も年間行事等を精査し授業時間の確保に努める。</p> <p>〈学習指導〉 (1) Google for Educationの利用方法など課題がある。環境整備を含めて、さらなる改善を検討していきたい。 (2) 組織として教科等横断的な視点を持ち授業構想や授業実践の情報を共有し計画を立て実施していきたい。</p>	<p>・生徒一人ひとりの学習ニーズに対して、日頃から丁寧な指導・支援が行われている。</p> <p>・生徒の様々な目標に応じてモチベーションの維持に取り組んでいる。ICTを活用したコミュニケーションなど工夫されており非常に良い。</p> <p>・ICT等を活用、工夫されていて授業改善において効果をあげられている。</p> <p>・弾力的(柔軟)な教育課程の実施を期待する。</p>	<p>〈教育課程〉 (1) ①新教育課程に基づく柔軟性の高い教育課程が編成できた。 ②3修制の希望者29名全員卒業することができた。 ④授業時間の確保を検討し、昨年度よりも授業時間数は確保できた。</p> <p>〈学習指導〉 (1) Google for Educationの利用方法など課題がある。 (2) 教科横断的な取組みを組織的に実施できなかった。</p> <p>(2) 各担当で実施している教科横断的な内容を情報共有し、組織的に実施できるよう検討する。</p>	<p>〈教育課程〉 (1) ①新しい教育課程に基づく指導法を検討し、研修する。 ②単位修得や学習への意識付けを行い、3年で卒業する生徒への自覚を促す。 ③定期テストの共通化とともに質の高い授業を検討する。 ④引き続き、授業時間数の確保に努める。</p> <p>〈学習指導〉 (1) 環境整備を含めて、さらなる改善を検討していきたい。 (2) 各担当で実施している教科横断的な内容を情報共有し、組織的に実施できるよう検討する。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>(1) 規範意識や他者理解(多文化共生)を身に付けた円満な人格を形成する。</p> <p>(2) 様々な問題を抱える生徒支援体制の充実を図る。</p>	<p>(1) 全職員体制で、きめ細やかで粘り強い生徒指導に取組み、生徒の規範意識や基本的な生活習慣の育成を図る。</p> <p>(2) 生徒の自主・自立に向けた支援体制を組織的に行い、自己肯定感や自己有用感を育む。</p>	<p>(1) ①授業中の携帯電話使用や報告カードの活用等、生徒のマナーやモラルの向上に向け、職員間で統一した指導を継続して行う。 ②巡回指導と生徒への声掛けを通じ、問題の未然防止に努める。 ③本校の「学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止に努め、円滑な人間関係の構築に向けた支援と互いを認め合う心を育む (2) 職員の組織的な支援体制を充実させ、SC、SSWをはじめ、関係機関等と積極的に連携を図る。</p>	<p>(1) ①生徒が基本的な生活習慣を身に付け、ルールを守り、学校生活を送ることができたか。(特別指導件数の推移等) ②巡回指導を通じ、問題行動を未然に防ぐことができたか。(特別指導件数の推移等) ③速やかな情報収集と早期対応ができたか。(担当者による評価)</p> <p>(2) 生徒の状況を職員全体で共有し、組織的な支援ができたか。関係機関等と連携できたか。(担当者による評価)</p>	<p>(1) 巡回計画の組み方の工夫と授業取り組み週間を見直したことで、基本的な生活習慣の定着や問題行動の未然防止・早期対応につながった。</p> <p>(2) 支援を必要とする生徒に対して生徒情報交換会で情報を共有し、SC、SSW、関連機関等と連携をとりながら組織的な対応を行った。</p>	<p>(1) ①②報告カードの内容の見直しと活用については、より良いものとなるように追求していく。 ③速やかな情報収集と早期対応については、職員間で統一した意識が持てるように、継続的に働きかける。</p> <p>(2) 引き続き生徒情報交換会を実施して、SC、SSW、関連機関等と常に連携をとりながら組織的に対応していきたい。</p>	<p>・いじめや問題行動等への取組が未然防止に目を向けられており、よい方針だと思う。</p> <p>・生活指導・巡回指導により問題行動の防止につながっている。</p> <p>・ICTが進歩しても、人と人との対話や温もりが人を育てるので、生徒一人ひとりとの会話をお願いしたい。</p>	<p>(1) 巡回計画の見直しや、ICTを活用して、生徒心を得や基本的な生活習慣の意識付けができた。問題行動の未然防止のための、報告カードの有効活用については、課題である。</p> <p>(2) 支援を必要とする生徒は依然増えている。SC、SSW、関連機関等と連携をとりながら、組織的な支援体制の構築は、今後も重要である。</p>	<p>(1) 報告カードの項目を見直し、問題行動の未然防止とともに、情報共有のツールとしても活用していく。</p> <p>(2) 引き続き各学年に教育相談COを配置し、より充実した支援ができるように支援体制の構築を図っていく。生徒情報交換会やコア会議等で、情報を収集・共有し、組織的に連携を図る。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価(3月28日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	(1) 職業観や勤労観を育成するための組織的な進路指導体制の充実を図る。 (2) 外国につながる生徒等のキャリア支援体制づくりに取り組む。	(1) 計画的・系統的な実践を通じ、生徒に職業観・勤労観を身に付けさせるとともに、自己の将来に対し、意志をもって設計できるようにする。 (2) 多文化教育コーディネーターや学習サポート支援員等と連携し、日本語を母語としない生徒の支援を推進する。	(1) ①入学から卒業までを見通した積上げ式のキャリア教育を総合的な探究の時間を軸として取組む。 ②関連機関との連携によるキャリア支援教育を積極的に行う。 (2) 日本社会の中で自立していくことを視野に入れた教科学習指導の充実や多文化教育コーディネーターをはじめとする関連機関との連携を図る。	(1) ①生徒に的確な情報提供、進路指導を行うことができたか。(担当者による評価)(卒業した割合、進学・就職率) ②関連機関による説明会や就業体験学習(インターンシップ)を効果的に実施できたか。(担当者による評価、生徒対象アンケート) (2) 多文化教育コーディネーターや学習サポート支援員等と効果的な支援を実施できたか。(担当者による評価) 日本語を母語としない生徒に対して支援ができたか。(担当者による評価、生徒対象アンケート)	(1) キャリア教育については一部、新型コロナの影響により延期せざるを得なかったが、予定していた行事は実施することができた。 (2) 外国につながる生徒のサポートは、授業における日本語指導員や通訳の配置、多文化教育コーディネーター等の関連機関と連携をとり支援を行うことができた。	(1) 現在の状況を考慮し、オンライン等を利用したキャリア教育も検討する必要がある。グループ間や学年団と連携を取りながら、ICT環境の整備を進めていきたい。 (2) 外国につながる生徒が増加しており支援を充実させていきたい。日本社会で自立を促す指導については、個々の課題を把握し取り組む必要がある。	・国際感覚、コミュニケーション能力、表現力を養えると良い。 ・外国につながる生徒が日本社会で自立した生活を送るための指導・支援に対する個々の課題をよく把握している。 ・定時制卒業生とのきめの細かい対談が出来ると良い。 ・職業観や勤労観の育成をする上では、関係機関とのつながりが不可欠で、体験重視とする取組が大切である。 ・キャリア教育にもICT活用を取り入れると良い。	(1) 新型コロナの影響で、日程を延期せざるを得なかったが、計画は予定通り実施できた。学年とグループで連携を図りながらキャリア教育・コミュニケーション能力等の育成に取り組むことができた。 (2) 外国につながる生徒の支援体制については、日本語指導員や、多文化教育コーディネーター等と連携をとり支援を行うことができた。	(1) 多様な生徒のコミュニケーション能力の育成に努め、ICTを活用し関連機関と連携を取りながらキャリア教育に取り組んでいく。 (2) 外国につながる生徒の増加に伴い、日本語指導員や多文化教育コーディネーター等の配置を強化していく。
4	地域等との協働	(1) 地域に開かれた信頼される学校づくりに取り組む。	(1) 家庭・地域と連携し問題の未然防止や早期対応に努め、「協働」「共育」により安心安全な学校づくりを目指す。	(1) ①ホームページやメール配信システム等を通じ保護者や地域に対し、積極的かつ速やかに情報発信を行い、教育活動の見える化を図る。 ②防災教育や問題の未然防止に向けた取組みについて地域との連携を推進する。	(1) ①ホームページの更新がスムーズにできたか。速やかに情報発信できたか。(担当者による評価) ②保護者・地域・警察等と連携し、問題の未然防止ができたか。(担当者による評価) ②地域や保護者との協働による教育活動ができたか。(担当者による評価)	(1) ①ホームページやメール配信システム等を活用し、学校から積極的に情報発信を行うことができた。 ②夜間避難訓練や防災講話を行い、生徒の防災意識を向上させることができた。	(1) ①今後もホームページ等を活用してより詳しく継続的に情報を発信していきたい。 ②夜間避難訓練を通して、必要な防災管理体制を検討していく。継続して三ツ沢南町と地域活動を行い連携を深めていきたい。	・近年の定時制高校の状況が教員を目指す学生に正確に知られていないことがあるので、学校訪問や学習ボランティアなどの機会をお願いしたい。 ・新しい生活様式での地域との交流を期待する。 ・積極的に情報発信をして欲しい。	(1) ①ホームページを活用し、継続的な情報発信をすることができた。公開している内容を確認し、常に新しい情報を提供する必要があるのである。 ②夜間避難訓練を通して、防災意識を高めることができた。三ツ沢南町との連携を深め地域に根ざした活動を行っていく必要がある。	(1) ①ホームページの内容を定期的に確認し、より新しい情報を提供できるように検討する。 ②引き続き、夜間避難訓練を通して防災管理体制を検討する。三ツ沢南町との連携を継続する。
5	学校管理 学校運営	(1) 常に安全・安心で快適に学べる教育環境の整備に努める。	(1) ①事故・不祥事防止に努め、地域・保護者に信頼される学校づくりを推進する。 ②生徒の防災意識を高め、安全策強化に努める。 (2) 働き方改革を進めるにあたり、長時間勤務の減少、年休の推進に努める	(1) ①事故・不祥事防止研修等を通じ、職員全体が高い意識を持つとともに、風通しの良い職場環境を整える。入学者選抜、成績処理、調査書作成、会計処理等について点検体制の見直しを図り、一層の事故防止に努める。 生徒の個人情報の適切な管理の徹底を図る ②地域等と連携し、防災教育を推進するとともに、防災マニュアルについて必要な改善を行う。 (2) ①長期休業期間中の学校閉庁日を5日設定する。 ②夏季休暇を全て消化する。	(1) ①研修等を通じ、職員の意識を高めることができたか。(担当者による評価) 点検体制を強化し、事故・不祥事ゼロを実現できたか。(担当者による評価) ②生徒に対する防災教育を実施できたか。(担当者による評価) 地域等と連携し防災教育を推進することが出来たか。(担当者による評価) (2) ①学校閉庁日を5日実施できたか。 ②夏季休暇を適正に取得できたか。	(1) ①各班による適正な事故・不祥事防止研修会を実施し、意識向上に努めた。 成績処理については、全体での点検を実施し、事故防止に努めた。 長期期間に実施される入学者選抜では入選WGを中心に組織的に実施することで事故なく実施することができた。 ②防災マニュアルの改善を行った。 (2) 学校閉庁日を5日間設定し、夏季休暇をほぼ消化できた。	(1) ①定期的な事故・不祥事防止研修会を実施する。私費会計について、その都度、私費会計基準を確認して処理する必要がある。 ②継続して生徒に対する防災教育の推進していきたい。 (2) 夏季休暇が取得しやすいような学校閉庁日を設定する。	・生徒の防災意識等の向上を高めるため、地域との交流を具体的に進めるべきだと思われる。 ・夜間の学校管理上のリスクへの対応が求められている。生徒、職員の安全・安心を全てに優先した学校管理・学校運営をお願いしたい。 ・防災教育は地味ですが、社会へ出た時に身についているか、いなか、大きく影響し大切だと思います。 ・耐震補強工事による様々な対応がしっかりできている。	(1) ①適正な事故・不祥事防止研修会を実施することができ、意識の向上が図れたことで、成績処理や入学者選抜は適正に実施することができた。 (2) 学校閉庁日を5日間設定し、夏季休暇を全て消化できた。	(1) ①引き続き、定期的な事故・不祥事防止研修会を実施する。私費会計について、その都度、私費会計基準を確認して処理する必要がある。 ②防災マニュアルを意識した防災教育の推進を行う。 (2) 夏季休暇が取得しやすいような学校閉庁日を工夫する。